愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】社会的養護		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

社会的養育の役割と機能、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の意義と歴史的変遷及び、その基本原理と現状を把握する。また、社会的養護の制度や実施体系、対象、施設養護と家庭養護、社会的養護における領域の概要及び関係する専門職等を理解する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	授業の冒頭で前回授業で回収したシート、及び小テストを返却し、コメントを加えてフィードバックを行う。同時に授業用のアクション・シートを配布し、「今日の目標」と各自の「関心」を記述させる。その後、テキスト及び配布資料に基づき、ディスカッション・ディベートを取り入れた講義形式で60分程度授業を行う。最後に10分程度の時間を使い、テーマを示してブリーフ・レポートを記述させるとともに、理解度の自己評価をさせて提出させるする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	科目オリエンテーション 社会的養護とは何か	社会的養護の授業を受ける上でのオリエンテーションを行う。特に、事前事後学習の方法や施設等の見学・ボランティア活動並びに実習活動等を説明する。	□
第2回	社会的養護の基本原理	私的養育と社会的養育、児童養護と社会的養護の考え方を整理しながら、施設養護と家庭養護に分かれる社会的養護の構成と基本原理を理解する。	□
第3回	社会的養護の現状と児童養護問題	約45000名といわれる要保護児童が利用している社会的養護の現状を概観し、児童養護問題の本質を理解する。第一回の小テストを実施する。	□
第4回	社会的養護の歴史①近代までの歴史と岡山孤児院	わが国の社会的養護の起源と近代までの歴史を概観する中で、特に岡山孤児院における先駆的な社会的養護実践を紹介する。	□
第5回	社会的養護の歴史②戦後史とホスピタリズム論争	社会的養護の現代史の変遷を概観するとともに、戦後の社会的養護のあり方を左右したホスピタリズム論争を取り上げ、家庭的養護の推進が求められている現状を理解する。	□
第6回	社会的養護の理念と子どもの権利	社会的養護の理念を踏まえ、子どもの権利保障と社会的養護についての関係性、関連する政策等について学ぶ。第2回の小テストを実施する。	□
第7回	社会的養護の法制度　～児童福祉法と児童虐待防止法～	児童福祉法を中心とした法制度の成り立ちを学ぶ。児童虐待対応の仕組みをつくる児童虐待の防止等に関する法律も取り上げる。	□
第8回	子どもを保護する仕組みと行政機関　～児童相談所を中心に～	子どもを虐待から保護する仕組みを理解する。そして、社会的養護において重要な役割を果たしている児童相談所とその役割を学ぶ。VTR学習を取り入れる。	□
第9回	施設養護の体系と実践内容	社会的養護の体系を構成する児童福祉施設を中心としたサービス体系と、施設養護の過程及び基本的な実践内容を把握する。第3回の小テストを実施する。	□
第10回	社会的養護の領域①乳児院・母子生活支援施設	乳児院と母子生活支援施設の現状と課題を学ぶとともにVTR学習を通してその実際を理解する。	□
第11回	社会的養護の領域②児童養護施設	児童養護施設の現状と課題を学ぶとともに、VTR学習を通してその実際を理解する。	□
第12回	社会的養護の領域③児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児系施設	児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児系施設の現状と課題を理解する。	□
第13回	社会的養護の領域④里親とファミリーホーム	里親とファミリーホームの現状と課題を学ぶとともに、VTR学習を通してその実際を理解する。	□

第14回	社会的養護の担い手 レジデンシャルワークと被措置児童虐待	施設における多様な専門職に加え、里親・ファミリーホーム養育者等の非専門的マンパワーの現状と課題など、社会的養護の担い手について理解する。また、レジデンシャルワークの内容を把握した上で、被措置児童虐待を取り上げる。	□
第15回	社会的養護のこれから・まとめ	新しい社会的養育ビジョンに基づく社会的養護の今後を展望する。まとめの小テストを実施する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回の授業テーマに関する新聞記事や予習資料と該当するテキスト頁をよく読み、わからない箇所に下線を引きながらノートにまとめる事前学習を２時間程度行う。 授業後には、使用した配布資料・アクションシート・小テスト等はすべてポートフォリオに整理するとともに学習の要点をノートに整理する事後学習を２時間程度行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業で使用するアクションシート（ブリーフレポート）は回収後、評価を入れて次回授業時に返却する。ブリーフレポートは返却時に適宜コメントする。小テストは採点後の返却時に模範解答を解説してフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格・免許に必須の資質と知識を身につけられたか。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の児童福祉・教育現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うことのできる力強い思考力・判断力を習得できたか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	学校・幼稚園・児童福祉施設等における養護・教育・保育に携わることのできる主体性を体得できたか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			10%	90%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

小テスト　70%
提出物　20%

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『みらい☒　子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅰ』（株）みらい	9784860154981
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『保育福祉小六法』（株）みらい	9784860155025
2		
3		
4		
5		